

地域コミュニティで健康に暮らすための制度と実践

プライマリ・ヘルスケアと社会科学

少子高齢化、パンデミック、気候変動など社会が大きく変化するなか、保健、医療、福祉が連携し、地域の人々の健康を支援する体制が、これまで以上に必要となっています。

本シンポジウムでは、地域住民の予防・健康増進と保健医療サービスの提供について多角的に議論し、グローバルヘルスの視点も踏まえ、考えを深めたいと思います。

プログラム

18:00-18:05 開会のことば

ご挨拶—中野 聡(一橋大学 学長)

シンポジウムについて—本田 文子(一橋大学社会科学高等研究院/経済学研究科 教授)

18:05-19:00 第1部:日本のヘルスシステムと地域医療



「日本の地域医療とヘルスリテラシー:地域住民はどのような情報を必要としているのか?」
井伊 雅子
(一橋大学経済学研究科/国際・公共政策大学院 教授)



「地域医療と診療報酬:地域の医療・保健・福祉の連携と診療報酬改定」
小塩 隆士
(一橋大学経済研究所 特任教授、中央社会保険医療協議会 会長)



「在宅医療:地域コミュニティのステークホルダーとの協働」
佐々木 淳
(医療法人社団悠翔会 理事長)

19:00-19:20 第2部:グローバルヘルスとプライマリ・ヘルスケア



「地域医療と財政:「人間中心」の保健医療サービスを支える制度とは?」
(ランセット誌グローバルヘルス委員会の研究から)
Kara Hanson
(ロンドン大学衛生熱帯医学大学院公衆衛生政策学部 教授 国際医療経済学会 会長)

19:20-19:55 第3部:ディスカッション

コメンテーターによるディスカッション



林 修一郎
(厚生労働省保険局医療課 課長)



佐藤 主光
(一橋大学経済学研究科 教授)



山重 慎二
(一橋大学経済学研究科/国際・公共政策大学院 教授)

オーディエンスとの質疑応答

19:55-20:00 閉会のご挨拶

大月 康弘(一橋大学 理事・副学長)

2024年11月22日(金) 18:00~20:00 (17:30開場)

一橋講堂 中会議場 (東京都千代田区一ツ橋2-1-2学術総合センター2階)

参加費:無料(事前申し込み必要、申込切11月15日(金))

申し込み方法:右のQRコードから

<https://health-economics.hias.hit-u.ac.jp/event/20241122>

※ご登録者数が会場の座席数を超えた場合は、
オンラインでのご参加をお願いすることがございます。
(遠方、海外からオンラインでのご参加も可能です。)

言語:日本語、英語(日英同時通訳有り)

主催:一橋大学社会科学高等研究院医療政策・経済研究センター(HIAS Health)

ウェブサイト:<https://health-economics.hias.hit-u.ac.jp/>

SNS:<https://x.com/HIASHealth2825>

お問い合わせ:HIAS Health

<https://health-economics.hias.hit-u.ac.jp/contact/>

